第２回　守口市まち・ひと・しごと創生委員会
議事録

日　時　：平成 27 年 11 月９日（月）　15：00～16:45
場　所　：旧三洋電気守口第一ビル　２階　中会議室
出席委員：11 名
　　眞鍋昇委員、山口行一委員、赤堀彰則委員、南口哲也委員、中堀恭平委員、
　　石井貴委員、佐竹雅幸委員、岩佐聖二委員、長谷川敦子委員、大谷英理子委員、
　　吉岡典昭委員
欠席委員：２名（瀧川光治委員、宮本一彦委員）
傍聴者　：１名

◎委員長　○委員　●事務局

Ⅰ.開　会

１.委員長挨拶

◎委員長

定刻となりましたので、「第２回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」を開催いたします。委員の皆さまにはご多忙の中、本日ご参集いただきありがとうございます。議事に入る前に、事務局より本日の出席委員数の報告をお願いします。

●事務局

本日は、委員定数 13 人中 11 人が出席です。

◎委員長

ただ今事務局から報告があったように、委員会条例第５条第２項の規定に基づいて、定足数に達しているため、この委員会は成立しています。

前回都合により、欠席だった委員を紹介します。第５号委員で、門真公共職業安定所長の大谷英理子委員です。

（委員自己紹介）

２.前回の議事録について

◎委員長

まず、議事録についてです。前回の議事録は、予め委員の皆様に配布しましたが、10 頁の委員の発言について委員から申し出があったため、一部削除しました。今回、改訂した

ものをお手元に配布しています。これについて、ご意見、ご質問はありませんか。
特にないようなので、これを前回の議事録としてお認めいただいてよいでしょうか。

○委員全員
（異議なし）

◎委員長
瀧川委員と赤堀委員に署名委員として、署名いただくことになっています。本日瀧川委員は欠席ですが、後日署名をお願いします。

Ⅱ.議題

議題 1.「守口市の人口動向と人口見通し」

●事務局
（「守口市の人口動向と人口見通し」説明）

◎委員長
ご質問はありますか。よろしければ、後ほど併せて議論いただくことでよろしいでしょうか。

○委員全員
（異議なし）

議題２.「社会動態（転入・転出）からみる守口の課題」

◎委員長
転入実態や定住意向から、「守口の強みが活かせる住民像」とはどのようなものか、また、どのように働きかけることができるかについて、議論したいと思います。

●事務局
（「社会動態（転入・転出）からみる守口の課題」の「転入実態や定住意向」説明）

◎委員長
特に「守口の強みが活かせる住民像」について、ご意見はありませんか。委員、いかがですか。

○委員
前回も意見が出ていましたが、守口市は、利便性が高いこと、特に交通面の利便性がよ

いことが全体的な強みです。他の市町村には真似できない利便性があります。利便性を上げようと思っても、行政が行う施策として何ができるかという面があります。そのため、弱い部分を抽出して埋めていくこともよいと思います。

◎委員長
　アンケート結果により「若年者の定住意向は４割」ということですが、これについて専門的なお立場から、いかがですか。

〇委員
　私は守口市に住んだことはないのですが、住んでいる人に聞いてみたところ、「独身の時は何も不自由を感じなかったが、結婚を機に移住した」ということでした。その理由として、治安のことを言っていました。治安と言っても、自分に何かあったわけではなく、イメージということです。そのイメージの入口にあるのは「ごみ」で、「道路や公園にごみが目立つのを見ると、イメージをもってしまう」ということでした。その人は、大阪市西区の靭公園の近くの、住宅の比率が比較的高く、住みやすいと言われているエリアに引っ越しました。

◎委員長
　住宅ローンの相談など委員が詳しいと思いますが、いかがですか。

〇委員
　イメージですが、守口市は戸建てが多いです。戸建てが多いことが悪いということではありません。経済やまちが成長すると、徐々に中心部に集積してマンションが増えるというイメージですが、それとは異なると感じています。守口市と北摂エリアを比較すると、集合住宅、特に分譲マンションの割合が少ないです。供給されている住宅の問題から、住宅の一次取得者の絶対数が少ないのではと思います。結婚して家を買うときに選んだ場所で子どもを産んで育てるため、その地域で若い世代の人口が増えます。守口市は、まちの環境として、その点が違うのかなと思います。正しいかどうかは分かりませんが、この辺りで増えているものも、分譲マンションより戸建てが多いということから、人が集まりにくいのではないかと感じています。

◎委員長
　他にご意見はありませんか。後ほどご意見を伺いますが、本日は限られた時間ですので、後日ご意見がありましたら、事務局に連絡いただきたいと思います。

●事務局

（「社会動態（転入・転出）からみる守口の課題」の「転出実態や定住意向」説明）

◎委員長

ご意見、ご質問をお願いします。守口市が実際にどの程度ごみが多いのかは分かりませんが、日本はどこもきれいなので、ごみがまちにあると雰囲気が悪いというのはあります。都市デザイン工学の専門である委員はいかがですか。

○委員

ごみなどによるまちの印象が、アンケート結果に出ていると思います。話が飛躍するかもしれませんが、人口減少の関連で言うと、木造賃貸の密集市街地対策がキーになっていると感じています。アンケート結果を見ると、住環境や住宅条件が上がっています。独身世帯にとっての不動産はありますが、30 代くらいの子育て世帯にマッチするような住宅が少ないです。一方で木造賃貸が多いため、若者が子育てするにあたって転出するのではないかと思います。地縁や血縁がない人にとっては、梅田で働く場合、梅田から 20 分圏内の堺市北部、西宮市などが同じような立地条件です。そのような中で、それぞれを比較して、どこを選ぶかだと思います。

「④自然が少ない不満の解消」とありますが、まちの雰囲気の改善が重要です。自然が少ないということですが、淀川や鶴見緑地があり、特に自然が少ないわけではありません。強いて上げるなら、西宮市が掲げているような「花と緑のまちづくり」として、自治体が公共用地を開放して、市民ボランティアに緑を植えてもらう取組があるため、そのようなことが必要なのではないかと思います。緑に携わる人が多くなれば、自然が多く感じるようになります。

◎委員長

委員は堺市にお住まいということですが、守口市について、どのような印象がありますか。

○委員

イメージで言うと、守口市は生活保護の受給率が高いです。門真市、守口市が並んでよく言われます。大阪府内で、門真市が大阪市に次いで２番目、守口市が４番目です。だからどうというわけではありませんが、インターネットなどでデータが公表されると、そのようなまちとして見られるのではないかと思います。イメージなので、何をもってこのような結果になったのかは分かりませんが、そのようなことも影響していると思います。

治安が悪いイメージをもたれると、小学生くらいの、子どもだけで動く範囲が広くなる家庭では、親の考えとしては、できるだけ治安のよいところを選択します。治安に不安を感じると、20 代から 40 代の転出者が増えるのだと思います。

◎委員長

私は滋賀県大津市の団地から通っています。近くに、いじめ事件があった中学校があります。聞いた話ですが、その事件があってからは、地域的には京都市も近いことから、経済的に余裕があれば、京都市内の私立中学に通うこともあるようです。そのような事件があると、公立中学はよくないというイメージをもつようになります。子どもをもつ母親は、そのようなことには過剰に反応するようです。大阪の犯罪率はインターネットで見ると特段高いわけではないため、イメージは重要です。

今日は福島県から新幹線で移動してきましたが、今月、東海道新幹線は、東海道五十七次という特集をしており、枚方市や守口市もきれいな写真がありました。そのようなものを見ると、守口市はよいまちだと思います。そのようなことをアピールすればよいと思います。ないものを急に作るのではなく、特にお金をかけずに、今ある文化財的なものを適切に発信していくことも必要です。住んでいる人は、歴史的なものや文化的な背景を知っているかもしれませんが、私は知りませんでした。淀川を介した昔の交流や交通もイメージをよくするものだと思います。

奈良の明日香村も実際に行ってみると、田んぼが広がっていますが、飛鳥という名前と古墳のイメージから、多くの観光客が訪れます。実際に犯罪が多かったり、中学校の窓ガラスが割れているということが反映されたイメージなら、それはそれで理解できますが、イメージは、「こうすればよい」という決定的なものは難しいです。

宣伝という面から、委員はいかがですか。

〇委員

守口市の背景的な面についてです。私はずっと守口市に住んでいますが、昔は田んぼだったところが売却されて賃貸住宅になっています。子どもの頃には、木造の文化住宅が多くありました。松下電器の下請工場が多かったこともあり、低所得者が多いまちというイメージがありました。枚方市や寝屋川市に比べると、守口市、門真市と言えば悪い子が多いと言われており、不良が公園に集まっていました。今はそうでなくても、そのような一度ついてしまったイメージを引きずっているのだと思います。

安まちメールを見ると、毎日のように引ったくりや痴漢の情報が入ってくるため、そのような情報を見ると、イメージが負のスパイラルで増幅されるのだと思います。昨今、駅前に防犯カメラも設置され、私もこの辺りに住んでいますが、治安は随分よくなりました。

商店街では、シャッターが下りているところが増えています。大きな国道が走っているため、高架下はどうしてもごみや空き缶がたまりますし、高架下の公園はやや暗いです。私の実家は寝屋川市の近くですが、近くの公園は照明が少なくて暗く、子どもたちが集まっているのがよく見受けられます。そのような状況を見ると、敏感な母親は、鶴見区などもっときれいなところに住みたいと思うかもしれません。

大切なのはイメージづくりを根気よく続けていくことです。子育て世帯が転出超過になっている中、守口市が力を入れるべきことは、子育て支援など若い人を呼び込むことに注力していくことです。防犯イメージや、子育てしやすいまちのイメージを根気強く発信していくことが大事です。

来月、守口市もゆるキャラを作ることになっており、キャラクターが形づくられています。ワッペンやたすきをつけて、子育て支援のまち、子育てしやすいまちをＰＲしてもらうなどを根気強くやっていく必要があると思います。

保育所も統廃合で問題を言われていますが、この点についても慎重に対応していただければと思います。

◎委員長

先日も事務局との打合せで、「守口市は、小さい子どもへの助成を頑張っている」と言われていましたが、そのようなことは、市のホームページでも分かりにくいです。宣伝下手なところがあるのではと、雑談で話していました。

○委員

ＰＲの面でも、われわれが協力できるものは、何でも協力します。

◎委員長

若い人は、市の広報も見るでしょうが、フェイスブックなどで情報を得ることが多いと思います。われわれの世代は紙で見る方が落ち着きますが、そのようなジェネレーションギャップもあります。

○委員

ネットで情報があふれている中、単にＰＤＦで資料を貼りつけるのではなく、プラスアルファの工夫が必要です。

●事務局

（「社会動態（転入・転出）からみる守口の課題」の「市内での住み替え促進策」説明）

◎委員長

先ほど話が出ていた治安の問題もありますが、家賃や土地の価格などの金銭面も重視されています。前回委員から、日本政策金融公庫で地方創生に向けた取組をかなりされていると聞きました。それも含めてお考えをお聞かせください。

○委員

商工業の面で言えば、暮らすうえでは、まちに賑わいがあることがイメージアップにつながります。中心市街地に空き店舗が多い商店街があると、イメージを下げてしまいます。空き家が多いと、「火災は大丈夫か」、「治安は大丈夫か」というイメージをもちます。事業所が元気であれば、まちの雰囲気もよくなります。イオンなどの大きなスーパーがあることも便利ですが、守口駅を降りたときに、周辺の商店街も歩いてみたくなる雰囲気があればよいと思います。枚方市が、五六次として 56 番目の枚方宿を売りにしているなら、守口市も、57 番目の文禄堤という守口宿があります。このようなものを生かして、空き店舗にＮＰＯやボランティア活動に入っていただき、まちをアピールしていただくこともよいと思います。

その材料としては、市として守口大根に力を入れているように、昔からあるよいイメージのものがよいと思います。三洋電機の下請け企業で育った企業で技術のあるところが、それ以外の仕事も受けて成功している例もあります。治安面の他に、「賑わいのあるまち」、「技術をもった企業のあるまち」などもＰＲできれば、住みよいまちとして、イメージアップにつながり、転居しようと考える人がとどまるきっかけになると思います。

◎委員長

委員、金融のお立場からいかがですか。

〇委員

転出者の中で、最初から守口市外に転出しようと考えている人が約４割というのを見て、治安がよくない、自然が少ないなどの、よくないイメージと結びついていると思いました。子どもの数が減少していることで学校を統廃合したり、パナソニックが出て行く中で、産業を誘致するのも大事ですが、転出者から見た課題を考えると、公園の整備なども産業振興と併せて考えていく必要があると思います。

◎委員長

一般市民のお立場で参加いただいている委員はいかがですか。

〇委員

私も生まれてからずっと守口に住んでいます。主人の仕事の関係で、一時、交野市に転出しましたが、戻ってきました。それには、「守口市が好き」ということがあります。住んでいると治安面で気になることはありますが、自分の子どもたちも、「守口市から出たい」と言ったことがありません。イメージは悪いかもしれませんが、実際は、便利でプラス面が大きい、住みやすいまちです。そのよさをもっと広げていけばよいと思います。

悪いイメージは、どんどん広がるため、それを抑えるような新たな施策を市に頑張っていただきたいと思います。

子育てにお金をいただけるのはありがたいことですが、手当をもらったから子どもを産むかというとそうではありません。われわれ女性が考えることは、男性が考えることとは異なります。お金よりもまず、子育てがしやすい状況や環境を作ることが先決です。私が考えるイメージアップは、市民であるお母さんが主体になって行う講座、子育てセミナーやサロン、子育て世代同士が悩みを相談できてつながれる場を提供していただくことです。

私も、最近まで守口市で臨時職員をしていました。そこで子育て支援に携わって、市政に関心をもつようになりました。雇用の面では、若い世代に市政に興味をもってもらうために、若い人に市政に携わる仕事を紹介していただければと思います。

◎委員長

先ほど委員から、枚方市が東海道五六次、守口市が五七次という話が出ましたが、そのような市民の声をＮＰＯ等が盛り上げて、住んでいる人が自信をもてるようなものはどうかということでしたが、女性の視点からいかがですか。

○委員

守口市にも、古くてよいものが多くあります。古くから住んでいる地縁団体の人も力をもっているため、そのような人に防犯や高齢者のネットワークづくりに参加していただくのがよいと思います。子育て以外にも、そのようなところで人と人とがつながるのが大事です。ＰＲは、市役所だけでなく市民協働で行うことで、大きな力になると思います。

◎委員長

産官学というものもあり、官がやるべきこともありますが、そこに住んでいる人の盛り上がりがなければ、まちのイメージはよくなりません。「官が言うと嘘くさい」という、うがった見方をする人もあるのではないかと思います。

○委員

私自身、市役所関係の仕事をしてみて、「それ以前にもっていた市役所のイメージよりも市役所は頑張っている」という姿を見ましたし、「ここはもっとこうしたほうがよい」というところも見ました。良い面と悪い面の両方を見たため、そのような観点から、発言していきたいと思っています。

◎委員長

公園をもっと明るくしてはどうかという提案もありましたが、いかがですか。

○委員

淀川の河川敷や鶴見まで行けば、皆楽しんでいますが、守口市の小さい公園では、犬の

散歩をしても後始末をしていなかったり、ホームレスのような人がいて危ない印象があります。そのようなことを整備することが大事だと思います。

◎委員長
　そのようなことが、治安の悪いイメージに結び付きやすいのでしょうか。

○委員
　母親たちの中には、それを気にして「公園に行けないのでここに来ました」という人も多く、子育て支援センターに来る人もいます。

○委員
　「最初から守口市外に転居しよう」と考える子育て世帯についてですが、それには教育水準の問題もあると思います。小学校入学に際しては、地元の公立に通わせるか、私立に通わせるかという選択ができます。市の広報にも掲載されていましたが、守口市の学力は、大阪府の平均よりも低いです。そのような情報も入手できるため、小学校入学を機に、転居して、公立でも他市の公立を選択するという考えも出てきます。35 人学級と、力を入れていることを何かで読みましたが、それだけでなく、教育水準全体を上げるために市が行う施策をもっと大々的にＰＲして、地元の学校に入ってもらうことも必要だと思います。

○委員
　約４割が、守口市内での住み替えを検討しないということは、否定的にとらえられがちですが、逆に言えば、守口市内は交通面や日常の生活が便利であることの裏返しとも取れます。子育てを考えるとそうでもないですが、それ以外の人が住みやすいと思って、実際に住んでいることの裏返しの可能性があります。「住んでみると意外によい」と思っていただけるようになれば、大きく変わるのではないでしょうか。

◎委員長
　確かに交通の便はよいです。交通の便が悪いからと言って、行政が頑張って作るわけにはいかないため、これは大きなメリットだと思います。

○委員
　交通の便がよいことは、都市間競争で、入口部分で優位に立てるメリットです。

○委員
　アンケート結果で、クロス集計はしていますか。この中には、結婚や離婚、転勤で守口市内に留まれない人、東京に転出した人も含まれているのではないかと思いますが、今、

分かっていることがあれば、教えてください。

●事務局
　アンケートは単純集計の速報値を報告しているところで、クロス集計は、現在集計途中です。今回の転出者アンケートは、ここ１年間に近畿２府４県に転出した人に限定したアンケートです。東京圏に引っ越した人は、そもそも対象者に入っていません。

◎委員長
　詳細な分析結果は今後出てくると思います。先ほど委員からありましたが、集合住宅と戸建住宅との違いは分かりますか。集合住宅の人が転出しやすい、戸建住宅の人が増えているなどの傾向はありますか。

●事務局
　現在、守口市には賃貸住宅に住んでいる人が多く、約 30%が民間の賃貸です。クロス集計は現在途中段階なので、結果についてはまだ提示できません。

◎委員長
　委員は、商工会議所の視点からいかがですか。

○委員
　事業所が賑わっていなければ、まちの雰囲気も悪いです。住工混在の問題も、考えるきっかけの１つだと思います。今は、隣に工場があっても臭いがすることはないと思いますが、イメージとして、そのようなところに転入したい人は少ないと思います。一方で、そのようなものがなければ働く場所は確保できません。様々なことが関わって難しいと思いますが、住工混在の問題を市がリードして整理すれば、守口市のイメージもよくなると思います。

議題３．「自然動態（出生）からみる守口の課題」

●事務局
　（「自然動態（出生）からみる守口の課題」の「結婚」説明）

◎委員長
　地域の情報発信という観点で、委員はいかがですか。

○委員
　私も独身です。商工会議所も出会いの場を提供しており、手伝ったことがありますが、

実際に出会いの場としてパーティを開催しても、女性の参加が少ないようです。婚活パーティと銘打つと参加しにくい人が多いのだと思います。むしろ、それとなくそういう人が集まる場、男女がお互いに興味をもって協働で何かを行うサークル、教室などにシフトしていく必要があります。一方で、婚活に行く人は、様々な場所に出向いており、同じ人を何回も見るということもあるようです。新しい形で楽しい集め方を考えることが必要です。

◎委員長

以前に知人から、全国都道府県の中で、関東圏では群馬県、栃木県、茨城県のイメージが低いため、茨城県で、ＮＰＯ法人が歴史を振り返る取組を行ったところ、意外にもそのＮＰＯ法人がカップルができる場になったという話を聞いたことがあります。同じ目的でほどほどの距離でつきあう中で、よい人に巡り合うということもあるようです。ご指摘のように、婚活と言うと引いてしまう人もあるようです。

〇委員

女性にとっては、守口市という狭い範囲でやっていると同じ顔触れになるため、どのように入れ替えるかが必要です。商工会議所で、社長や青年実業家が多数参加する婚活パーティを開催していますが、若い女性の中には、「青年実業家は今後苦労しそう」と考え、公務員、消防署員などを好む人もあるようです。公務員の男性を集めたパーティのほうが、女性には人気だと思います。

◎委員長

前回、若い世代の支援が重要というご意見を述べられた、委員はいかがですか。

〇委員

婚活のイベントに参加するのであれば、男女共に守口市以外の場所で参加するように思います。市内には顔見知りがいる可能性があるため行きません。私は、婚活は行政がやるべきことではないと思います。地域の農村で、人が集まらないところには必要ですが、守口市で行うことには違和感をもちます。

子育てのところで意見を述べようと思ったのですが、教育のまち、安心安全のまちかどうかについては、先ほど委員からあったように、私も 40 数年前からブルーカラーのイメージをひきずっています。とは言っても、今は私もその校区に住んでいます。子どもが小学校に入学する際に、自分が生まれ育った校区に住みたいと思っていましたが、よい物件がなかったため、結婚して実家から近い隣の校区に住みました。住んでみると、一生懸命に地域活動やＰＴＡ活動を行っている人があり、学校の先生も頑張っていることが分かります。自分自身がそのようなことに気がつくと良いイメージに変わるのです。教育水準につ

いて様々なデータが出ていますが、これは学校の責任ばかりではありません。遡ると、家庭の生活習慣に原点があります。学校の先生が一生懸命になっても、夜更かししたり、朝食を食べずに学校に来れば、身につきません。皆が人任せや学校のせいにせず、公園の草がぼうぼうであれば、行政のせいにせず、自分たちのまちは自分たちで作っていくという人が、１人でも多く増えること、そのような子どもを育てていくことが必要です。郷土を愛することが教育委員会の大きな目標ですが、それは、行政や学校の先生だけではできません。保護者や地域の住民一人一人の参加が大事です。

多くの人が、守口市は、生活保護受給者などの低所得者が多いというイメージをもっています。数年前に夕張市が破たんしたときには、「次は守口市」と心配した人が多かったです。そのイメージを未だに引きずっていると思います。住民は、国民健康保険の保険料が高いなどを、他の市町村とすぐに比べます。

市が子どもに対する助成金にしっかり取り組んでいるという話が出ましたが、確かにしっかりとやっていただいていますが、先行して行うのではなく、遅いです。他の市町村がやった後にようやく守口市もつけるため、ニュースにはなりません。「ようやく守口市もやるようになった」というイメージです。他市町村と同様なことやそれ以上におこなっていただいているのに非常にもったいないです。

健康問題も同様です。平成 14 年に健康増進法が制定され、公共機関での受動喫煙防止が定められましたが、市役所の敷地内には、いまだに灰皿があります。健康の聖地と言われる市民保健センターも、地域の中でも、もっとも遅く敷地内禁煙となり、学校も平成 22 年８月に、ようやく敷地内禁煙となりました。すべてやることが遅いです。真っ先に行うことが大事です。市民として保護者として、ここ数年間、このようなことを感じています。

◎委員長

給食の問題も様々な考え方があります。欠食児童は、ビタミン、ミネラルが不足します。カップラーメンばかり食べていると、糖分は取れますが、たんぱく質や微量元素が不足します。それが原因となって、神経系の発達が悪くなることが明言されています。最近、栄養学の専門家は、「体が著しく大きくなる子どもにとって、給食で一日分の栄養を取ることも重要である」と言っています。１年で身体が大きく成長していく子どもたちにとっては重要なことだと思います。

●事務局

（「自然動態（出生）からみる守口の課題」の「妊娠・出産」説明）

◎委員長

委員は、子育てを経験される中で、ご意見はありませんか。

○委員

最近、不妊治療に悩んでいる母親が多いです。知人も、不妊治療によって出産しましたが、精神的にも身体的にも厳しいと聞きます。出産が１つのゴールになっていて、そこからの子育ては、年齢も重ねているので辛いということです。経済面でも厳しいため、不妊治療に対する補助があればよいと思います。

結婚の希望をかなえる支援に話が戻りますが、子どもを産むためには、まずはパートナーを見つけることが必要です。４割の人が婚活に賛成なら、出会いの場を求めている若い人がいるということなので、実施してみる価値はあると思います。婚活と銘打たずに、カップルで茶話会などがよいと思います。今は１人では動けない人が多いため、友達と一緒に参加でき、男女同じくらいの人数になるような場であれば、気楽に参加できると思います。そのようなことを考える価値はあると思います。

他市の事例を調べてみたところ、ライフデザインセミナーとして、赤ちゃんと触れ合う機会の少ない高校生や未婚の人向けに、赤ちゃんを抱っこする機会を設けたり、ウエディングドレスを試着して結婚への夢を感じてもらう機会を設けたりしています。併せて、専門の先生による、妊娠・出産についての性教育も行っています。自己負担 500 円から 1,000 円ということで、大変好評と聞いています。親向けの婚活セミナーを実施しているところもあります。子どもがどうすればパートナーが見つけられるかなど、恋愛や結婚ができない人をサポートしている市もあります。結婚が決まったカップルに向けた、オリジナルの結婚届けを作っているまちもあり、婚姻届を出しに行ったときに記念写真を撮ってプレゼントしているところもあります。

このような他市のよい例を守口市も取り入れてみてはどうかと思います。

○委員

女性にとっては、結婚、出産は大きな問題です。今は、親や姑と同居する世帯が減っているため、相談する相手がいません。不妊についても、病院に行くべきか、そのままにするかという選択をする際に、相談相手がいません。妊娠段階から出産、育児まで、そこに行けばワンストップで相談できる、包括的な支援センターのような機関がしっかり整備されていれば、「結婚して守口市に住もう」、「このまま守口市で産もう」という気持ちになると思います。そのような施設を今後、増やしていくべきだと思います。

○委員

取り扱った例の中に、産後院的な事業がありました。その背景として、今は里帰り出産ができない人が多いようです。地元が他府県であったり、共稼ぎだったりと様々な事情があるようです。韓国にあるような、助産婦が集まった産後院ですが、通常は、出産後数日くらいで退院させられますが、人によっては、その後もその施設で入院でき、母親の面倒を見ると共に、授乳の補助や家事支援を行ってくれるというものです。出産そのものと、

出産前後のフォローがセットになっています。このような、育児に入る前の、出産に対する支援があればよいと思います。

結婚機会についてはどうなのかという問題はありますが、妊娠、出産くらいから子育てについては、ワンストップで相談や支援ができる場所が、どこか１か所でもあればよいと思います。

○委員

今は、性教育でどのように教えているのかと思っています。不妊に関するテレビ番組で、世界各国で行っている中高生に対する性教育と日本での性教育を比べていました。今までの、日本の性教育は、避妊や性病に関することに主眼が置かれており、卵子の老化については、しっかり教えていなかったということでした。この点を、女性がしっかり認識することが必要です。20 代から 30 代にかけて、仕事が楽しく公私共に充実する時期ですが、ふと思ったときに、不妊の問題に出会うのではないかと気になりました。

これは、守口市だけでなく日本全国の教育の問題です。この辺りのことを中高生の時期にしっかり学ぶことが、ライフデザイン教育にもつながります。妊娠しやすい年代のときに、妊娠できないという場合は、行政としてしっかり補助していただきたいと思います。

●事務局

（「自然動態（出生）からみる守口の課題」の「子育て（育児）」説明）

◎委員長

まずは、専門家のお立場から、委員いかがですか。

○委員

平成 25 年度の統計で、20 歳から 59 歳の女性の就業率は、大阪府は 66.1％で、全国で 45 位と、かなり低いです。逆に大阪府の結婚退職率は全国で４位と意外に高く、出産、育児も、全国平均より大阪府は高いです。これは、核家族のため育児の協力を頼めない結果だと思います。

このようなことから、男性の協力にどうしても視点がいきます。厚生労働省の事業で、くるみん企業の認定というものがあり、赤ちゃんをくるんでいる、くるみんマークを作っています。これは、次世代育成支援対策推進法に基づいて、ワーク・ライフ・バランスのための行動計画を策定し、一定の基準を超えた企業を認定して、税制面を若干優遇するという制度です。

この事業の守口版として、ワーク・ライフ・バランスに力を入れている企業、男性の育児休業取得率が高い企業を認定するなど、企業にメリットがある事業を行うことで、守口市の知名度を上げるようにしてはどうかと思います。そのような企業があることが、守口

市への移住を考えてもらうきっかけになると思います。
　子育てには、保育所などの施設の問題もありますが、企業の努力による男性の育児参加も外せない項目だと思います。

◎委員長
　事業者のお立場から、委員はいかがですか。

〇委員
　大企業なら人数に余裕があって育児休業も取得しやすいですが、中小企業の現状は、余裕のない人数でまかなっているところがほとんどのため、長時間労働をしないと納期に間に合わないなども問題も起きてきます。子育てのために時短で早い時間に退社させるという取組も、あまり聞きません。他にどのような取組ができるかと考えても、非常に難しく、私自身も答えが出ていません。現実的には、中小企業で、すぐに実施するのは難しいと感じています。

◎委員長
　子育てには、赤ちゃんの段階、保育園に預けられる段階など、様々な段階があります。保育園に預けられる段階になれば、保育園を充実すればよいということになりますが、初期段階は、大きい問題です。そのような問題があることで、休職ではなく退職してしまうという状況になっていると思います。市だけで解決できる問題ではありませんが、前向きに対応する必要があります。よい解決策があればと思います。お金を出せばよいという問題ではありません。「制度的にこのようなものはどうか」、「他市で、このような例がある」などがあれば、教えていただきたいと思います。
　最後に全体を通して言い残したご意見があれば、お願いします。後日、お気づきの点があれば、事務局に連絡をお願いします。調整して最終報告に生かせるよう、議論いただきたいと考えています。よろしくお願いします。

●事務局
　前回、委員からご指摘があった、現在守口市内で利用いただいているプレミアム商品券についてのアンケート結果ですが、11 月末までアンケートを実施しており、現在集計中です。
　また、委員から事務局に連絡があり、広報もりぐちの 11 月号を参考配布しています。今回は配布させていただきましたが、これはホームページでも毎号掲載しているため、ご覧いただきたいと思います。

◎委員長

前回、今回と、皆様から様々なご意見をいただきました。これを踏まえて、次回までに、答申案の素案としてまとめさせていただきます。次回はそれを確認いただくと共に、次回の議論をさらに含める形で、答申案を深めたいと考えています。それを各委員に確認いただき、最終案として決定します。私が最終案を決裁して、市長に答申することでよろしいでしょうか。

〇委員全員

（異議なし）

◎委員長

次回は、12 月 3 日（木）の午前 10 時から開催します。招集案内は事務局から追って送付します。本日の議事録の署名は、南口委員と中堀委員にお願いします。

Ⅲ. 閉会

◎委員長

今日はお忙しい中、どうもありがとうございました。今後とも、よろしくお願いします。

以上